

ごみが処理されるまで

～空へとつづく「ごみ」のたび～



はい 灰などを溶融します。

「溶融炉」では煙やガス、カービンなどを燃焼すると共に、灰や不燃物を溶融しています。

「溶融炉」はごみ処理施設の心臓部であり、施設にとってとても重要な設備です。

根室北部広域ごみ処理施設の溶融炉は「円筒縦型の旋回流溶融炉」を採用しており、ガス化炉からの排ガスを旋回方向に引き入れます。

溶融した灰分はスラグ状になって落下し、傾斜部に集まり、まとまった一本のスラグの流れになります。

その後、高温スラグは炉最下部のスラグ排出口より、スラグ冷却装置へ連続して落下し水冷スラグとなります。

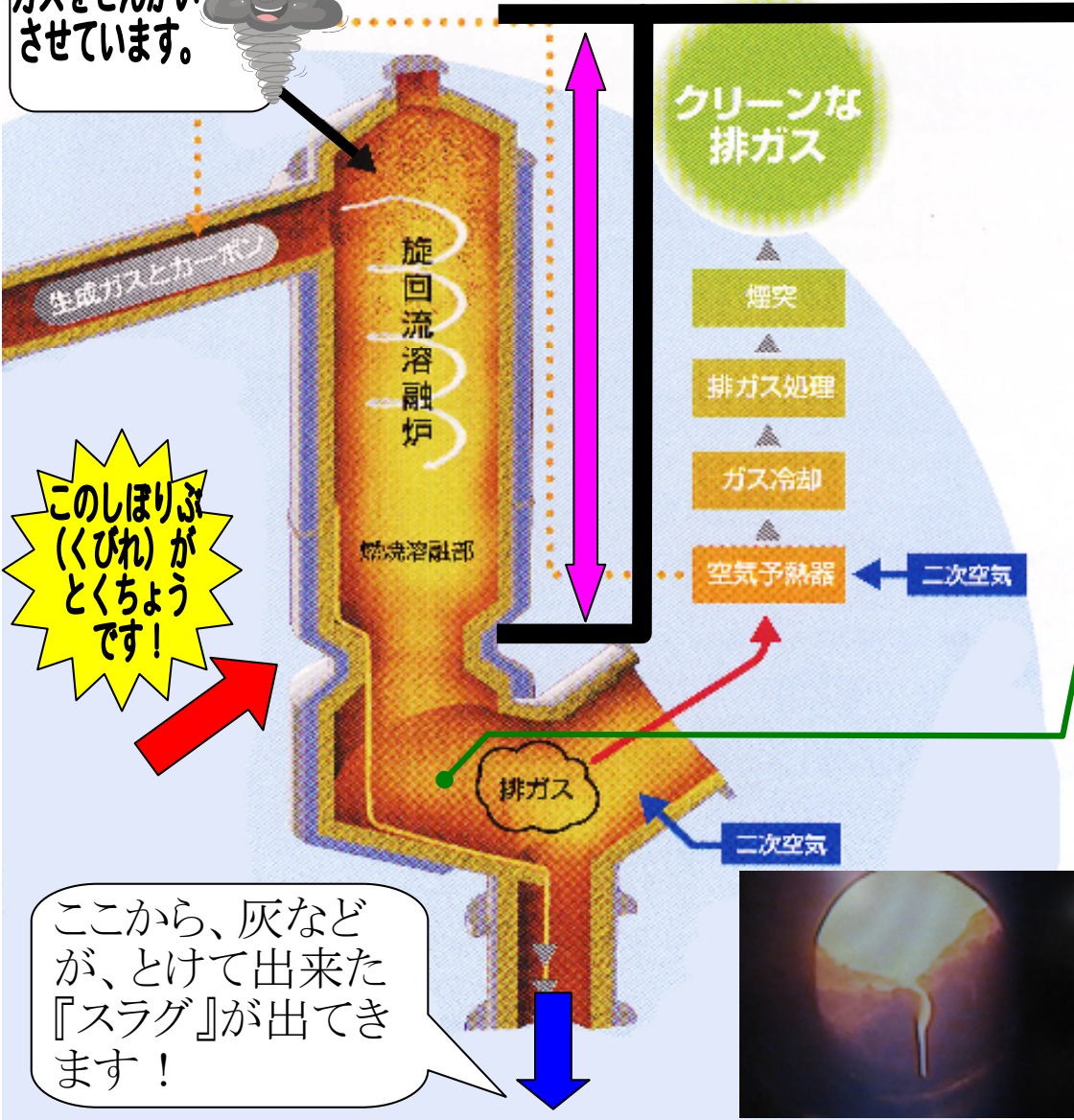
ようゆうろ 溶融炉による 溶融

ガスをせんかい
させています。



このしほりぶ
(くびれ)が
とくちょう
です!

ここから、灰など
が、とけて出来た
『スラグ』が出てき
ます!



溶融炉の上部から下部の絞りぶ(くびれ)までの間で、
燃焼用空気を加えて安定した1300度の高温状態を保持
し、確実に焼却・溶融できる設計になっています。

はいがとけて「スラグ」となって、
ドロドロに溶けて流れて行きます!

